4) Shotake, T., Kawamoto, Y., Adachi, A. Hayashi, Y. and Nishida, T. (1988) : Genetic variability within and between Yak, Cattle and their hybrid. In : Morphological and genetical studies on the native domestic animals and their wild forms in Nepal (The University of Tokyo), 1 : 101-109.
5) Shotake, T., Kawamoto, Y., Adachi, A., Hayashi, Y. and Nishida, T. (1988) : Genetic variability of Nepal native goat. In : Morphological and genetical studies on the native domestic animals and their wild forms in Nepal (The University of Tokyo), 1 : 111-113.
6) Shotake, T., Kawamoto, Y. Adachi, A., Hayashi, Y. and Nishida T. (1988) : Genetic variabilities within and among Asian Elephants (*Elephas maximus*) populations of Sri Lanka, South India, Nepal and Thailand. In : Morphological and genetical studies on the native domestic animals and their wild forms in Nepal (The University of Tokyo), 1 : 115-121.

学会報告

1) 川本　芳・田中洋之・庄武孝義・野澤　謙 (1988) : ニホンザルのビタミンD結合性蛋白質 (DBP) の多型. 霊長類研究、4 : 198.

生活史研究部門

杉山幸丸・森　明雄・山極寿一・宮藤浩子[1]

研究概要

1) 西アフリカの熱帯多雨林および乾燥サバンナに生息する狭鼻猿の比較生態学

杉山幸丸・森　明雄・大沢秀行[2]
三谷雅純[3]・中川尚史[4]・室山泰之[4]

カメルーン国南部の熱帯多雨林（カンポ）と北部の乾燥地帯（カラマルエ）において、それぞれ同所的に生息する複数種の霊長類の採食行動、社会行動、性行動、個体群動態等について比較調査した。これらを合わせて、各種の行動様式と社会構造の環境への適応を比較考察している。またコンゴ国北東部よりカメルーン国南東部及び赤道ギニア国ビオコ島において、植生環境と霊長類の種構成に関する広域調査を行った。

2) 西および中央アフリカに生息する大型類人猿の行動生態学

杉山幸丸・松沢哲郎[5]・山極寿一・佐倉　統[4]

ギニア国ボッソウに生息する野生チンパンジーの個体群を個体識別の下に長期追跡調査してきた。本年度は実験的操作も含めた道具使用行動についてのまとめを行う一方、チンパンジー分布域全体に広がる文化圏形成の理論化を試みた。また、行動・形態発達（形態基礎部門の木村賛、岡山理大の浜田穣と共同）、性周期の同調機構の理論化など、現地調査によって得た資料から一歩進んだ課題へと進んだ。

一方、ザィール国東部の熱帯性山地林や低地多雨林に同所的に生息するゴリラとチンパンジーの採食生態と行動特性、社会構造の異同が両種の共存にいかなる関連を持つかについて検討している。さらに両種の共存域の資料を非共存域における他の研究成果と比較することにより、類人猿と人類をつなぐプロト・ホミニドの分化過程についての考察も進めている。

3) ニホンザルの採食・繁殖生態と個体群動態の研究

杉山幸丸・森　明雄・大沢秀行
山極寿一・中川尚史・佐倉　統
アリ＝スマ[4]・芝原総子[6]

宮城県金華山島において個体の採食戦略を環境の食物供給状況との関連において追求し、大分県高崎山では社会的地位との関連において追求した。いずれも栄養分析によって摂取エネルギーと消費エネルギーのバランスにまで考察を進めた。一方、社会部門、生化学部門と共同で所内放飼集団において性行動と父性判定に基づく両性の繁殖戦略の探求を行った。また、これらの戦略と関連して順位、繁殖成功度、個体群動態の長期資料を高崎山および幸島において収集している。

---

1) 非常勤講師
2) 社会研究部門
3) 学振特別研究員
4) 大学院生
5) 心理研究部門
6) 研修員

屋久島ではヤクシマザルの環境条件や行動特性を他の地域に生息するホンドザルの自然群や餌付け群と比較し、本種の行動や社会に影響を与えている環境因子について検討している。

さらに、ニホンザル全体の生息数を推定しその動態を明らかにする研究も進めつつある。

4）カメルーン国カンポ動物保護区における罠猟の研究

森　明雄

カンポでは現地住民の生計活動の中で重要な役割を占める跳罠猟の調査を行ってきた。特に、獣道やそれを通過する動物に対する現地住民の認知構造の分析を行っている。

5）有蹄類の社会関係・社会構造の研究

広谷　彰[1]

霊長類との比較のため、北部フィンランドで行ったトナカイの現地調査のまとめを行った。

論　文

1）杉山幸丸・大沢秀行（1988）：高崎山に生息する餌づけニホンザル個体群の動態と管理. 霊長類研究、4(1)：33-43.

2）Sugiyama, Y. & Soumah, A. G.（1988）：Preliminary survey of the distribution and population of chimpanzees in the Republic of Guinea. Primates, 29(4)：569-574.

3）Sugiyama, Y.（1989）：Local variation of tool and tool behavior among wild chimpanzee populations. 杉山幸丸編“野生チンパンジーの行動研究”：2-16.

4）Sugiyama, Y.（1989）, Description of some characteristic behaviors and discussion on their propagation process among chimpanzees of Bossou. 杉山幸丸編“野生チンパンジーの行動研究”：43-75.

5）Mori, A., Watanabe, K. & Yamaguchi, N.（1989）：Longitudinal changes of dominance rank among the females of the Koshima group of Japanese monkeys. Primates, 30(2)：147-173.

6）山極寿一（1988）：ゴリラの生活様式に見られる地域差について―ヴィルンガ火山群とカフジ山の比較から―. アフリカ研究、33：19-44.

7）Yamagiwa J., Yumoto, T., Mwanza, N. & Maruhasi, T.（1988）：Evidence of tool-use by chimpanzees（*Pan trogrodytes schweinfurthii*）for digging out a bee-nest in the Kahuji-Biega National Park, Zaire. Primates, 29：405-411.

8）Nakagawa, N.（1989）：Feeding strategies of Japanese monkeys against deterioration of habitat quality. Primates, 30(1)：1-16.

9）Nakagawa, N.（1989）：Activity budget and diet of patas monkeys in Kala Maloue National Park, Cameroon：A preliminary report. Primates, 30(1)：27-34.

10）佐倉　統(1988)：人間言語の起源に関する試論：行動生態学的アプローチ. Networks in Evolutionary Biology, 6:20-38.

研究報告・その他

1）杉山幸丸（1988）：害獣駆除でサルに絶滅の危機. 科学朝日、48(11)：54-57.

2）杉山幸丸（1988）：西アフリカの野生チンパンジーの現状. 福井正信編“厚生省肝炎連絡協議会霊長類検討委員会報告”：30-33.

3）杉山幸丸（1988）：霊長類資源の現状・確保の方策. 山内一也編“実験用霊長類の研究開発及び国内安定供給に関する調査研究”：123-138. 新技術振興渡辺記念会、東京.

4）羽柴克子・杉山幸丸（1988）：ニホンザルの分布と個体数. 山内一也編“実験用霊長類の研究開発及び国内安定供給に関する調査研究”：181-193. 新技術振興渡辺記念会、東京.

5）羽柴克子・杉山幸丸（1988）：ニホンザル・猿害捕獲後の行方. 山内一也編“実験用霊長類の研究開発及び国内安定供給に関する調査研究”：169-179. 新技術振興渡辺記念会、東京.

6）山極寿一・丸橋珠樹・浜田穣・湯本貴和・ムワンザ・ンドゥンダ（1988）：ザィール国キブ州に生息する霊長類の現状と保護の必要性について. 霊長類研究、4：66-82.

7）山極寿一（1988）：ザィール調査記1. モンキー、219・220：35-42.

学会発表

1）杉山幸丸（1988）：野生チンパンジーにおける同性・異性間のグルーミング頻度―ギニ

ア・ボッソウ個体群の社会構造の検討から．第35回日本生態学会大会、講演要旨：314.
2）杉山幸丸（1988）：ニホンザルの保存と管理―高崎山から野生個体群まで．第4回日本霊長類学会大会．霊長類研究、4(2)：155.
3）杉山幸丸（1988）：チンパンジーの文化―棒器使用と石器使用．第7回日本動物行動学会大会．講演要旨：15.
4）森　明雄（1988）：ニホンザル幸島群におけるオトナメス間の順位序列の経年変化．第4回日本霊長類学会大会．霊長類研究、4：160.
5）山極寿一・丸橋珠樹・湯本貴和・ムワンザ・ンドゥンダ（1988）：ゴリラとチンパンジーの種間関係について．第4回日本霊長類学会大会．霊長類研究、4：159.
6）Yamagiwa, J., Maruhasi, T., Yumoto, T., & Mwanza, N. (1988) : Ecological studies on sympatric populations of *Gorilla g. graueri* and *Pan t. schweinfurthii* in eastern Zaire. XIIth Congress of International Primatological Society. Int. J. Primatol., 8 : 519.
7）山極寿一（1988）：マウンテンゴリラの異性愛行動と同性愛行動．第7回日本動物行動学会大会．講演要旨：31.
8）宮藤浩子（1988）：ニホンザル幸島群の遊動と統合機構―大群と小群の比較―．第35回日本生態学会大会．講演要旨：312.
9）宮藤浩子（1988）：ニホンザル未経産メスの周辺化傾向―相対的周辺度と近接度をもとにして―．第4回日本霊長類学会大会．霊長類研究、4：163.
10）三谷雅純（1988）：南西カメルーン、カンポ動物保護区における樹上性霊長類の混群形成．第35回日本生態学会大会．講演要旨：315.
11）岩本俊孝・三谷雅純（1988）：西アフリカ、カメルーンの熱帯雨林に生息するダイカー類の食性について．第35回日本生態学会大会．講演要旨：299.
12）三谷雅純（1988）：カメルーンの熱帯多雨林における樹上性霊長類の混群形成．第4回日本霊長類学会大会．霊長類研究、4：159.
13）広谷　彰（1988）：家畜管理がトナカイの社会関係におよぼす影響．第35回日本生態学会大会．講演要旨：301.
14）中川尚史（1988）：金華山島における野生ニホンザルの冬季のエネルギー収支．第4回日本霊長類学会大会．霊長類研究、4：179.
15）佐倉　統（1988）：チンパンジーの単雄コミュニティー．第4回日本霊長類学会大会．霊長類研究、4：157.
16）佐倉　統・松沢哲郎（1988）：チンパンジーの道具使用：ヤシの実割りの生態学的実験．第7回日本動物行動学会大会．講演要旨：15.
17）佐倉　統・松沢哲郎・杉山幸丸（1988）：ジェザー―ボッソウの野生チンパンジーの一日．第7回日本動物行動学会大会．講演要旨：34.
18）松沢哲郎・佐倉　統（1988）：チンパンジーの採食地選択：行列の観察と足跡の個体識別による分析．第4回日本霊長類学会大会．霊長類研究、4:155.
19）芝原総子・井上美穂・竹中晃子・杉山幸丸・Soumah, A. G.・竹中修・大沢秀行（1988）：交尾期におけるニホンザルの雌の雄に対する行動．第7回日本動物行動学会大会．講演要旨：16.

生理研究部門

大島　清・目片文夫・林　基治
野崎眞澄・清水慶子[1)]

研究概要

1）マカクザル胎児の感覚系発達に関する生理学的研究

大島　清

マカクザルの胎生各期における感覚系の発達を電気生理学的・生化学的に解明する。

2）Prostaglandin E_2のサル子宮頸管に与える影響

大島　清・清水慶子

PGE_2を妊娠末期のサル子宮頸管内に投与し、頸管の熟化、分娩誘発および胎児に与える影響を調べた。

3）ニホンザルの繁殖期の季節性のメカニズムの神経内分泌学的研究

1）教務職員